

No-01-012

《題目》『検査結果から考えられる病名を全て報告しろ』

どのような仕事においても『プロ意識』は重要であると思います。『プロ意識』とは、自己の仕事の目的や存在意義を自覚することにより、職業に誇りを持つことだと思います。同時に、その仕事に就いている自分の責任範囲を明確にし、意識することで、より完璧な仕事ができるように精進することだと思います。

私が、ブリストルに入社して数年後、医科大学としては比較的著名な臨床の先生より、患者検体の分析依頼がありました。依頼検査項目の内、特殊検査に属する項目も数個ありましたが、依頼書は最初に私に回ってきました。依頼項目などの記載事項を確認していくと、依頼書の最後に、以下の文章が書いてありました。

《上記項目の結果がでたら、その結果から考えられる疾患名を、全て報告すること》

信じられませんでした。その時に気持ちを、そのまま書かせて頂きます。お客さんである先生には、少々失礼かもしれませんが、ご容赦下さい。それは、【この野郎、何を考えているのだ。どのような疾患かをかんがえるのは、お前の仕事だろう】。勿論、この先生も、報告書に書かれた疾患名は、あくまでも参考であって、総合的な診断を踏まえ、最終診断を下すのでしょうか。我々の仕事は、サンプルを正確に分析し報告することであり、その結果と問診やその他の診断を踏まえて診断を下すのは、医師の仕事だと思います。それがプロ意識だと私は信じています。

当然ですが、臨床検査の分析を行っている以上、各検査項目の意味や高値や低値になった際の原因、同一項目であっても、分析原理が異なる場合の結果の解離などについて、日頃から学習していました。ですから、異常値が出た場合などは、他の検査項目の値を調べ、結果の妥当性をチェックすることは、少なくとも私の居た会社ではやっておりました。更に、臨床検査における分析では、試薬等を自家調整することもあります。メーカー品を使うことが殆どです。販売している会社により分析の結果に解離が生じ、分析精度も異なります。使っている分析法（製品）の原理や特性・性能を十分理解し、安定した、医師が的確な判断を下せるようなデータを提供することが、プロとしての責務であると思います。